

昭和二十二年六月十二日（第三種郵便物認可）
令和七年十二月十日発行（毎月一回十日発行）
定価 五〇〇円

第1011号

龍

跳

春季昇段・級試験課題発表

第八十二卷

1
月号

高知
龍跳書道会

町田碧峰書



夢

翻刻左繡敍 しゅう

貫名松翁 ぬきなすうお

傳家祇_レ攬_レ爾。夫子如憲。
後世之茫然而親授之乎。惡。
舍_二游夏_一之徒。附之別人之有。
如果授_二之_一邱明乎。則公羊穀。
梁豈敢_二於_一吾師之師所親授。
立_二異議_一之有。夫子_レ不授邱。

傳家祇以攬之爾。夫子如憲。後世之茫然。而親授之乎。惡。舍游夏之徒。附之別人之別人之有。如果授之之邱明乎。則公羊穀梁。豈敢於吾師之師所親授立異議之有。夫子之不授邱。

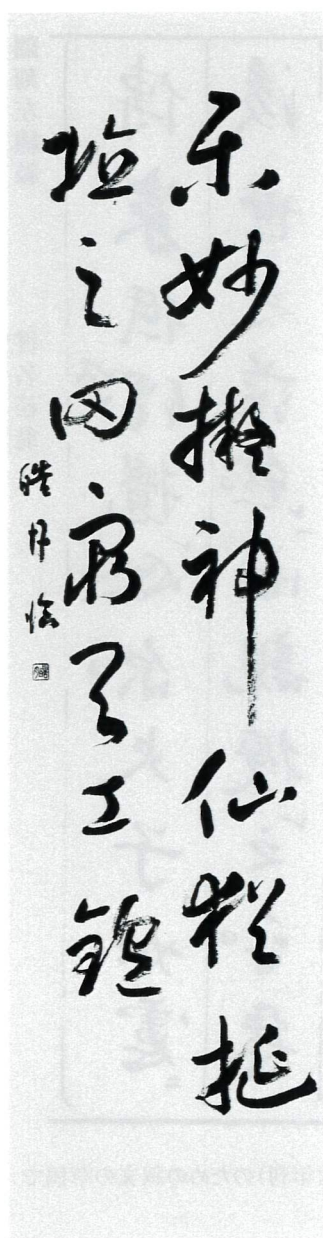
この左繡敍稿本は、松翁が自家出版した左繡（嘉永七年刊）のための叙文の草稿である。細字行書のよき模範といえよう。

前田秀華書



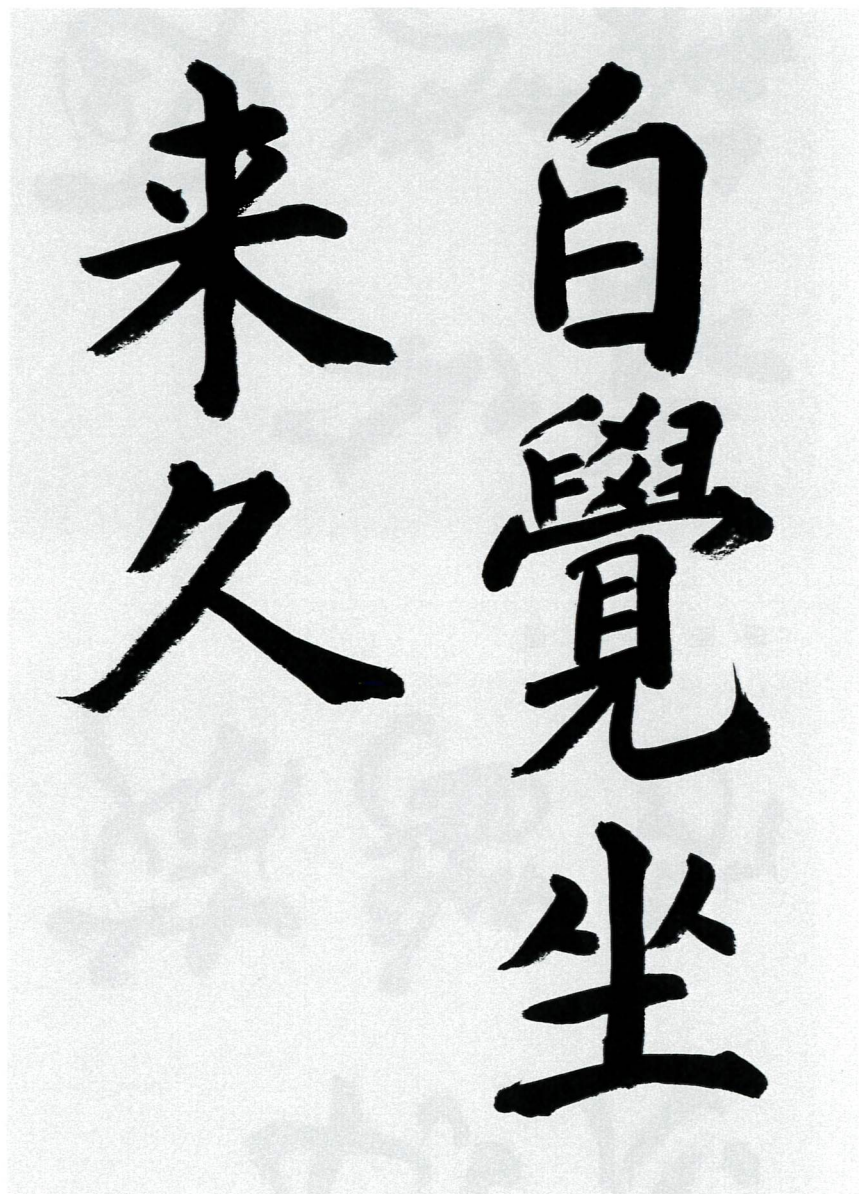
燕子也知秋色老向人如作別離聲

奥堂皓月臨



樂妙擬神仙猶擬植之罔窮與工鑑

梅
川
桂
龍
書



みずか おぼ きた ひさ
自 覚 見 坐 来 久
みずか おぼ きた ひさ
自 覚 見 坐 来 久

1月20日締切

福 原 曉 雲 書

瑞 氣 梅 花 満 つ

瑞氣梅花満つ
梅元

福 原 曉 雲 臨

授親而
之子

江西澄翠書

半山殘月露華冷
兩岸野風蓮葉香

伊吹悠道臨

千里結言寧有後群
賢畢至根居可

門田惠子臨

廣德施安西滿懷安未茂
馬頤左老祥行信右子明右白明信

藤原朱鳳臨

述刊畠史美灼二書
德音雲龔碩響朱鳳

工用為文滿市厭美名
多似王蒙為嫌而通

大原桂園

距獨旨珠璣不屬律
人吏毋得擅衙

岩河里華

古之所稱以為良史
者不以不懼不詔

鈴木輝代

史倚峰跋頻入額入書
安通九閣 旌和

小笠原廣峰

之所可用致之所
以意故安友

弘田賀峰

指薪循祐永綏吉劬矩
步引領俯仰廊廟

山崎隆志

父不二之求且之才
揚名多淡為寂

岡林 翠

割不能自勝故以木
以少金增感

池 芳春

積仍享親之福一書
陳一少造以之

高橋桜芳

夫子膺五緯之精踵
千年之聖固天

川崎志津

条幅当選作品 福原 曉 雲 選評

★天位

弘田賀峰君 書譜臨、品良くはあるが動きが小さく揃い過ぎた。

小笠原廣峰君 いつもながら大胆な作品づくりに感心します。今後共、おおいに研究されるよう期待しています。

鈴木輝代君 王鐸のすばらしい流れを取り入れ、楽しく見入りました。雅号の「臨」の研究を！

岩河里華君 少し小規模か、これに太細線で変化を付けて欲しいです。

大原桂園君 余白に負けてしまった、これに落款とも墨量が欲しかったです。

★地位

川崎志津君 すばらしい流れです。今後更に線の変化と文字の大小を付けて研究を。

高橋桜芳君 やさしい書譜の臨、新鮮な流れです。勉強して下さい。

池 芳春君 後一步、細い所に運筆、気配りを願います。

★人位

岡林 翠君 細かい所に気配りを、うんと臨書することです。

山崎隆志君 美しい作品です。生氣あり。「筆庄と抑揚」を。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◁

12月の審査は21日(日曜)午後1時に開始します。審査終了後、忘年会を行います。

場 所 高知城ホール

☆新年試筆作品締め切りも当日です。出品料は5,000円です。

人類の
幸福

1月20日締切

冬期
休期

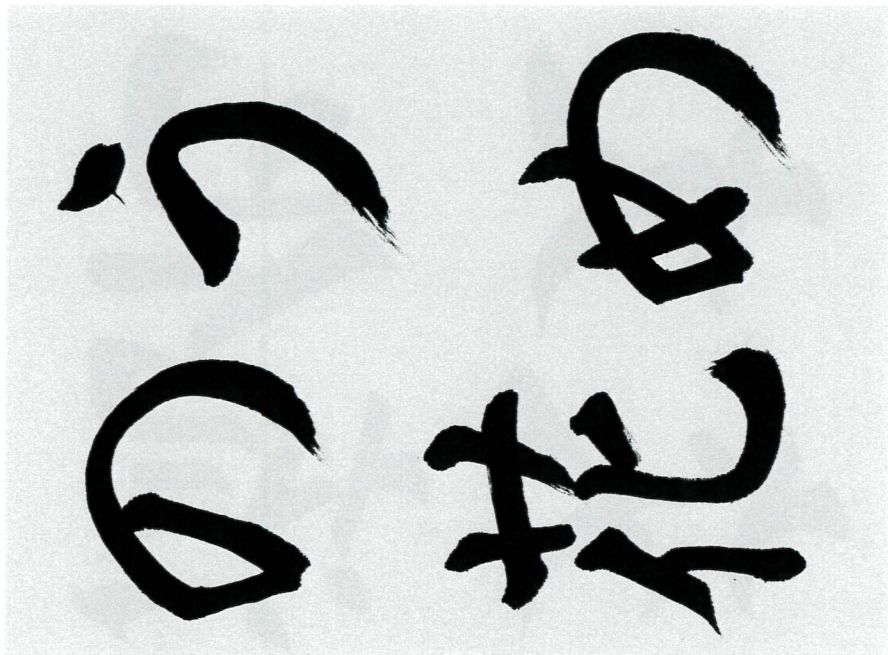
1月20日締切

交流文

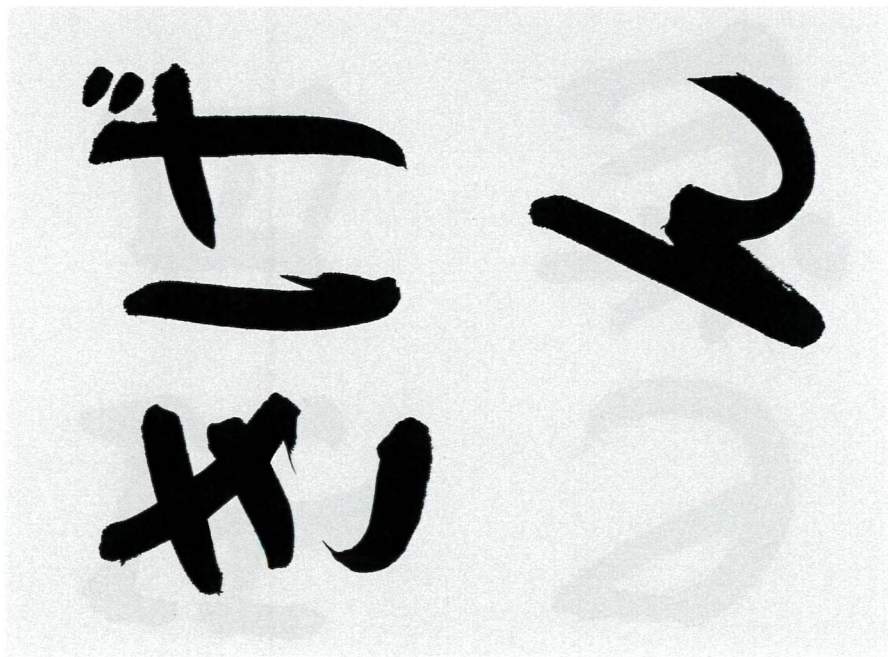
1月20日締切

初の日出

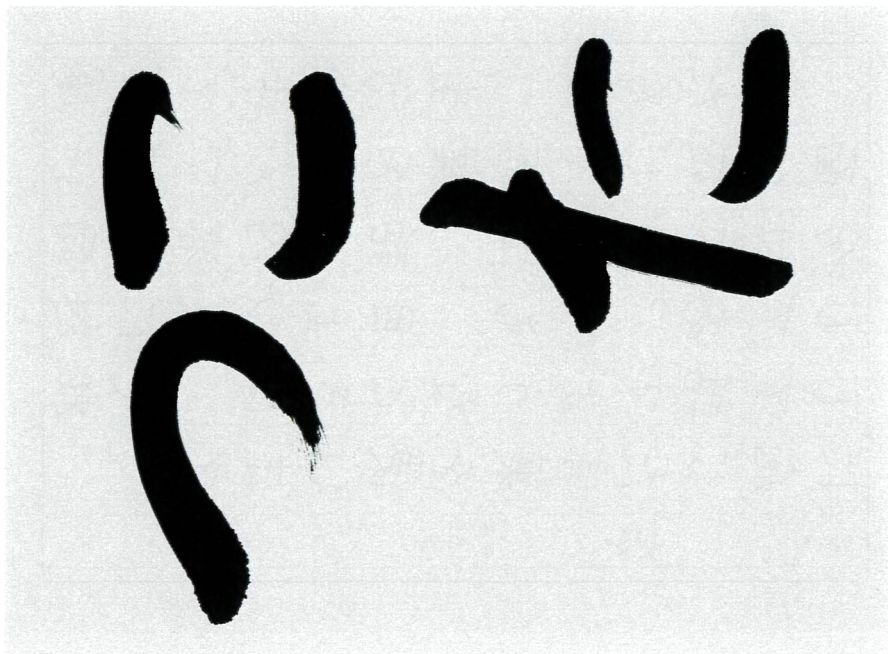
1月20日締切



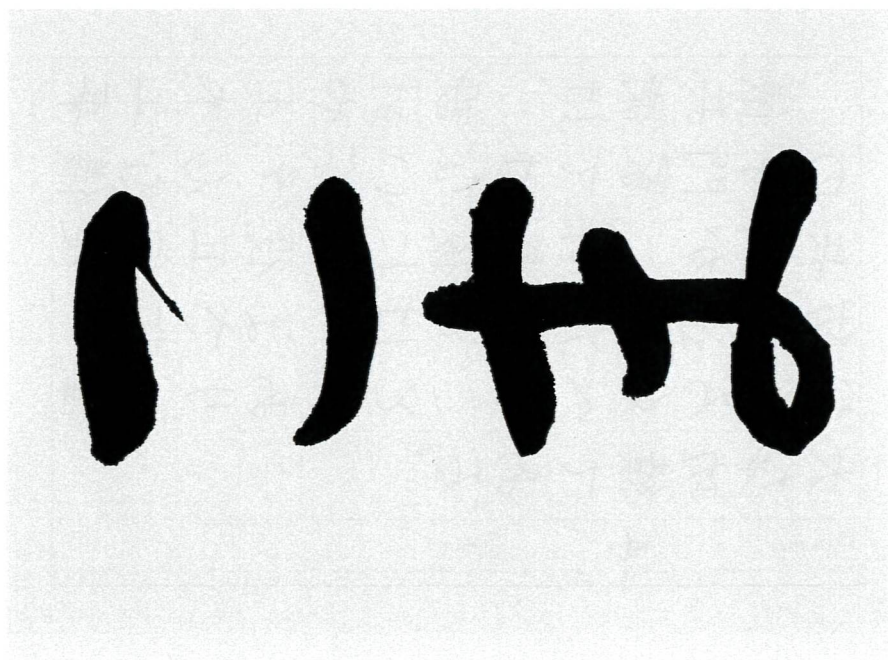
1月20日締切



1月20日締切



1月20日締切



1月20日締切

私たちは、生活の中で、場面に応じて言葉を選んで使い分けています。話す内容が同じであっても、目上の人に対して話すようなときは、それに応じた言葉を使います。									
学校名				六年	級段	氏名			

1月20日締切

儀兵衛は、設計や土木工事の専門家ではない。そんな儀兵衛が、百年後にも役立つ堤防を造ったことは、まさに、おどろくべきことであり、偉大な功績である。									
学校名				五年	級段	氏名			

1月20日締切

学 校 名		四 年	級 段	氏 名	
試合終了直後のシーン を見てみましょう。勝っ たチームのおうえん席で は、選手とおうえんした 人たちが一体となって 勝利を喜び合っています。					

1月20日締切

学 校 名		三 年	級 段	氏 名	
ふとんからはね起きる と、三年とうげに行き、 わざとひっくり返り、転 びました。ぬるでの木の かげから、おもしろい歌 が聞こえてきました。					

1月20日締切

アイロソって船み					
たい。	けむり	を	出	し	
て、	お	か	あ	さ	ん
の	水				
色	の	ス	カ	ー	ト
を	ゆ				
っ					
く	り	す	す	む。	

かっこう

二ねん

だん
ごう
なまえ

1月20日締切

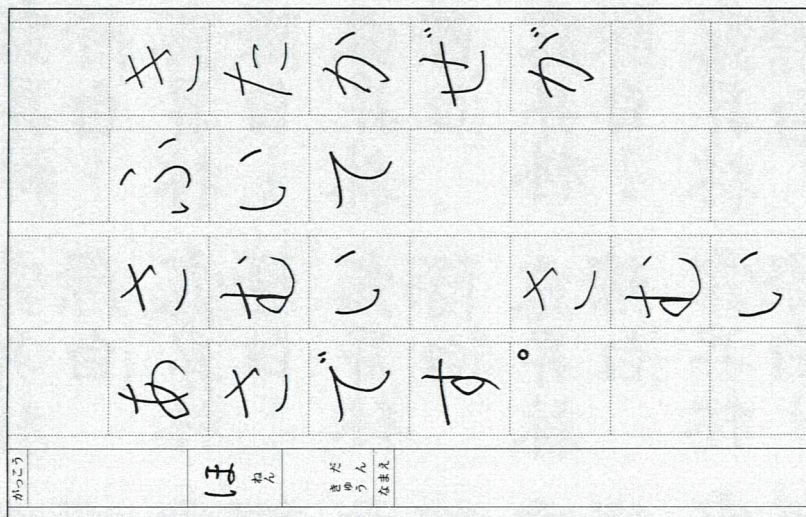
小	さ	な	さ	か	な
の	き	ょ	う	だ	い
ち	が	た	の	し	く
く	ら	し	て	い	た。

かっこう

一ねん

だん
ごう
なまえ

1月20日締切



1月20日締切

〈訂正〉

本誌12月号の裏表紙に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

月例競書課題 一月二十日の半紙規定は

「自[・]學・坐來久」は誤りで、正しくは「自[・]覺・坐來久」です。

お知らせ

★第六十六回室戸市展

無監査 福原 曉 雲

★第七十一回安芸市展

無監査 福原 曉 雲

★第六十二回高南台地展

奨励賞 横田 紫 秋





(一・二段目) 梅川桂龍 選評
孝北君 最近の作、非常に力強さを感じています。増々のご加勉を。

賀峰君 墨量豊かで、達者な筆使いで佳。

邦心君 小粒にまとめて、線に味わいがある。

竹山君 章法よく深い線質で安定した作。

圭子君 屈託のない書きぶりに魅力あり。

喜泉君 慎重な運筆で好感もてる作。(二・三段目) 廣末幽念 選評

星子君 気力充実、明るい。

悠道君 楽に書かれ暢びやかな作。

薫山君 良い線でまとめ方も良い。

光翠君 いてねいな運筆で力強い。

順子君 大きく強く表現できている。(三・四段目) 岩河里華 選評

律子君 しっかりと筆使いで力強い。

美草君 一紙にしっかりとまとまって美しい。

雅月君 力強い線でよくまとめている。

美香君 やさしい線で明るい。

明美君 しっかりとした線で魅力的。

紀美子君 堂々とした線で立派。(四段目) 隅田亘心 選評

衣里子君 点角、結体よく整っている。

有紀君 のびやかな筆致で明るい。

杏実君 力強い線で形もよい。

精微體
生滅宋・秀華

有尊
崇只美佐君

有尊
崇只順子

奉以周
旋也美佐君

鄭君當
時播美佐君

魯史
春秋美佐君

平古
云彼順子

合和同
國中君美佐君

奉以周
旋也美佐君

己帝以
本付美佐君

奉以周
旋也順子

真主
手滿美佐君

桃紅復
含宿美佐君

棲仍
存親美佐君

緯無文
不綜賢美佐君

奉以周
旋也美佐君

不能自
勝美佐君

夏陽令
蜀郡仁陽

慧柯
一飛美佐君

預聞
前史美佐君

(一・二段目) 前田秀華 選評

容舟君 筆先がよくきいて切れ味鋭い。

賀峰君 運筆に余裕があり明るい作。

里華君 寧々たる臨書。

花梢君 堂々たる運筆。

芳春君 線強く筆力あり。

美佐君 堅実な書きぶり。

(二・三段目) 武内美仁 選評

紅花君 作品に余裕を感じる。佳作。

英子君 むつかしい十七帖に挑戦され立派。

翠君 堂々とした臨書、見応えあり。

仁陽君 字々明るく、余白の生きた作。

順子君 運筆自在に流れ、重厚感もある。

(三・四段目) 西山極山 選評

倫子君 力みなく余白が生きている。

雅月君 原帖の雰囲気あり。がんばって下さい。

美香君 もう少し図太く書くとうい。

虎之介君 動きよく伸びやかな作品。

志津君 いつもながらすっきりして観て楽しい。

美知子君 難しい作品にとりくんでいる。がんばって。

(四段目) 西山極山 選評

千賀君 すっきりして美しい。

俊二君 素直に書けている。

綾君 のびのびと書けた。

長岡 三年 森田 夫夫	の月 曲光	國東小 六年 島村伸空	平世 和界	六年 大城リカ	平世 和界	紅全 葉山	紅全 葉山
四年 田村紗香	の文 日化	四年 竹内 外生	の文 日化	五年 西内明利	の月 曲光	五年 小笠原結那	の月 曲光
三年 小笠原 蓮生	山 里	三年 小笠原 蓮生	山 里	上分三年 橋田 一か	山 里	の文 日化	の文 日化
ふえ ふえ	ふえ	ふえ	ふえ	しはや しはや	しはや しはや	しはや しはや	しはや しはや

(一段目) 中学部
茉奈君 〓 よくまとめています。
杏実君 〓 しっかり書いています。

(二段目) 小学六年
リサ君 〓 力強く、ていねいに書いています。
香月君 〓 ゆつたりと書いて、あたたい作品です。
倅空君 〓 ていねいに書いて、よくまとまっています。

(一・二段目) 小学五年
実咲君 〓 のびやかで整っています。
結那君 〓 ていねいに書いています。
美緒音君 〓 しつかり、ていねいに書いています。

(二・三段目) 小学四年
紗雪君 〓 ていねいに書いています。
伽菜心君 〓 一字一字しっかり書いています。
治太君 〓 しつかり書いています。

瑠那君 〓 明るくのびやかに書いていました。

(三段目) 小学三年
はるか君 〓 力強くていねいに書いていました。
一か君 〓 元氣よく堂々としている。
芽生君 〓 しつかり書けました。

羽唯君 〓 すなおにていねいに書けました。

(三・四段目) 小学二年
のぞみ君 〓 のびやかで元氣いっぱい。
ゆま君 〓 落ちついて力強い。
かお君 〓 このちようでたくさん書いて下さいね。

脩平君 〓 元氣よく体が動いています。

(四段目) 小学一年
ゆいと君 〓 いつもながら元氣でいいですね。
こな君 〓 じようずによく書いています。
はると君 〓 「ふ」少しかたかんですが「え」は、とても良く書いています。

岡林邦心 選評
中平美峰 選評
河村容舟 選評
水田紅子 選評

多ノ郷 大城 リサ
浦ノ内 森田 葵

世界中で少なくとも五千万人以上が犠牲になった第二次世界大戦の後、二度とこのような戦争を起こさないために世界の国々が集まって、国連は作られました。

多ノ郷 大城 リサ

世界中で少なくとも五千万人以上が犠牲になった第二次世界大戦の後、二度とこのような戦争を起こさないために世界の国々が集まって、国連は作られました。

浦ノ内 森田 葵

五兵衛のすぐれた決断と行動は、読み手の心に大きな感動をよび起こしたが、同時に津波のこわさや、すばやく高い所へにげることの必要性を教えることにもなった。

長岡 西内 明利

五兵衛のすぐれた決断と行動は、読み手の心に大きな感動をよび起こしたが、同時に津波のこわさや、すばやく高い所へにげることの必要性を教えることにもなった。

野市 小笠原 結那

長岡 西内 明利
浦ノ内 正木 芳尚

五兵衛のすぐれた決断と行動は、読み手の心に大きな感動をよび起こしたが、同時に津波のこわさや、すばやく高い所へにげることの必要性を教えることにもなった。

長岡 西内 明利

五兵衛のすぐれた決断と行動は、読み手の心に大きな感動をよび起こしたが、同時に津波のこわさや、すばやく高い所へにげることの必要性を教えることにもなった。

浦ノ内 正木 芳尚

五兵衛のすぐれた決断と行動は、読み手の心に大きな感動をよび起こしたが、同時に津波のこわさや、すばやく高い所へにげることの必要性を教えることにもなった。

須崎 四・七・毛利 香花

五兵衛のすぐれた決断と行動は、読み手の心に大きな感動をよび起こしたが、同時に津波のこわさや、すばやく高い所へにげることの必要性を教えることにもなった。

長岡 西内 明利

すさき 金堂 涼
あそう たかはしいぶき

みそを作るには、むした米か麦にコウジカビをませたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜ合わせます。

すさき 金堂 涼

みそを作るには、むした米か麦にコウジカビをませたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜ合わせます。

あそう たかはしいぶき

みそを作るには、むした米か麦にコウジカビをませたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜ合わせます。

岡豊 中司 みのり

みそを作るには、むした米か麦にコウジカビをませたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜ合わせます。

あそう たかはしいぶき

多ノ郷 坂本 みさき
なる 坂本 しょうせい

二年生に なって から これまでに、心に のこった て きごを みんなの 前で 話しましう。

多ノ郷 坂本 みさき

二年生に なって から これまでに、心に のこった て きごを みんなの 前で 話しましう。

なる 坂本 しょうせい

二年生に なって から これまでに、心に のこった て きごを みんなの 前で 話しましう。

しんじよう なかじまゆいと

二年生に なって から これまでに、心に のこった て きごを みんなの 前で 話しましう。

しんじよう なかじまゆいと

長岡 森田 実咲
野市 小笠原 結那

須崎 毛利 香花
竹内 伽菜心

岡豊 中司 みのり
あそう まつさかのぞみ

しんじよう なかじまゆいと
すさき 金どう こな

第972回 競書成績

○印規定・随意共通昇級

条幅

審査 福原 曉雲

(※印写真版)

★推薦

※江西澄翠
※伊吹悠道
※門田惠子
※藤原朱鳳

★天位

※弘田賀峰
※小笠原廣峰
※鈴木輝代
※岩河里華
※大原桂園

河村容舟
西山極山
北村桂旭
大石千施
野中恵花
岡林邦心
水田紅子
深瀬緑堂
中平美峰

★地位

岩崎竹山
市川美香
山本恵歩

※川崎志津
※高橋桜芳
※池 芳春

山脇佳月
横田紫秋
濱田幸子

岩谷紅花
大平圭子
別役美佐
田村和子
田村眉州

★人位

※岡林 翠
※山崎隆志
吉永光翠

高橋美草
濱田順子
西村芳香
坂本碧香

規定

審査 梅川 桂龍

★師範

佐川 久礼
東洋 弘田賀峰
須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北

須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北

須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北
須田 孝北

★準師範

安芸 岩崎竹山
高知 大平圭子
旭筆 天野喜泉
上知 佐竹江月
高知 桑原智子

波介 市原處艸
須崎 深瀬緑堂
山田 水田紅子
須崎 深瀬緑堂
須崎 深瀬緑堂

岡田雄山
明石美桂
中城康華
武政幽雅
横山桂華

越知 池芳春
いの知 大野美賀
窪川 今井真理
吾桑 堅田清園
佐礼 井口花道
久礼 田中恵風
須南 西森令泉
須南 坂本碧香
久礼 大石千施
山田 西内仁子
久礼 別役美佐
久礼 橋本祝子
久礼 山田紅風
久礼 山田紅風
久礼 山田紅風
久礼 山田紅風
久礼 山田紅風

審査 廣末 幽念

★六段

野市 田村星子
東洋 伊吹悠道
東洋 岩谷紅花
大野見 大井 淳
大野見 下元玉泉

★五段

香北 岡本薫山
窪川 吉永光翠
窪川 横田紫秋
窪川 西村由香
窪川 武政幽雅
窪川 濱田幸子
窪川 山本心春
窪川 山本心春

窪川 山本心春
窪川 山本心春
窪川 山本心春
窪川 山本心春
窪川 山本心春

窪川 山本心春
窪川 山本心春
窪川 山本心春
窪川 山本心春
窪川 山本心春

★四段

旭筆 濱田順子
大野見 高橋翠園
須崎 渡辺加寿

須崎 渡辺加寿
須崎 渡辺加寿
須崎 渡辺加寿
須崎 渡辺加寿
須崎 渡辺加寿

審査 岩河 里華

★三段

仁淀川 品原律子
窪川 高橋美草
馬路 金子知加
高知 坪内倫子

★二段

須崎 松坂雅月
多ノ郷 市川美香
馬路 川内みさ
波介 森澤美佑貴
池川 川下久遠
南国 林 隆光

★初段

東洋 西尾明美
仁淀川 大原紀美子
南国 川口虎之介
浦ノ内 藤田美知子
東洋 前田伸枝
高知 川崎志津
馬路 久保可奈
仁淀川 掛井未来
仁淀川 掛井未来
仁淀川 掛井未来
仁淀川 掛井未来
仁淀川 掛井未来

★五級

旭筆 綾

仁淀川 藤原勝子
仁淀川 山本 房
仁淀川 城尾 彩

審査 隅田 巨心

★一級

仁淀川 藤原里子
東洋 太田有紀
仁淀川 片岡桂子
馬路 富山里恵
久礼 清岡奈津子
南国 山中英男
南国 西内俊二
南国 田内史恵
山田 尾立千賀
高知 山岡斗子

★二級

仁淀川 片岡晃美

★三級

仁淀川 吉永美佐

★四級

仁淀川 藤原杏実

★七級
越知 〇真辺千津子

第705回硬筆成績

○印は昇級

須崎 金堂莉李 佐古 田村健悟 ★四段 長岡 西内明利 ★初段 上分 赤崎南美 上分 中山結愛 ★四級 別府 ○片岡龍威	★四段 長岡 宮脇治太 多ノ郷森光梨衣奈 ★三段 越知 藤崎華乃 ★二段 長岡 澤村郁菜 吾桑 長山優奈 ★初段 野市 小笠原瑠那 ★五級 越知 ○宮脇未羽 ★九級 長岡 ○湯川 滯	★四段 上分 橋田一か 吾桑 高橋依吹 多ノ郷はし田かほ 新莊 中島彩斗 ★三段 岡豊 中司みのり 岡豊 島村昇牙 ★二段 馬路 小松時生 ★四級 長岡 ○大塚もも ★五級 越知 ○宮脇芽生 池川 ○藤原沙雪 別府 ○吉永羽唯	もうひつ二年 審査 深瀬 緑堂 ★四段 吾桑 松坂望未 ★二段 岡豊 梅原由菜 野市 小笠原恵那 ★初段 岡豊 荻 かお ★一級 岡豊 三谷斗維 ★四級 別府 ○片岡脩平 べふ○ ふじはらみずき ★九級 奈路 ○坂本翔成 ★新規 佐川 九級編入 井上めい	もうひつ一年 審査 水田 紅子 ★三段 しんじよう なかしまゆいと ★二段 須崎 金どうこな ★初段 池川 鶴井遥都 別府 後藤和葉 ★三級 池川 ○藤原成琉 ★七級 池川 ○大西悠心 もうひつ ようちほいく 審査 水田 紅子 ★新規 かみぶん よしむらそうた	硬筆六年 審査 森本 寿山 ★特待生 多ノ郷 大城リサ 須崎 松田菜乃 上分 梅原百叶 上分 小松希美 多ノ郷 松浦結菜 ★九級 長岡北村さくら子 久礼 森岡 虹 浦ノ内美島希花 浦ノ内 松山 翔 上分 田邊璃音 長岡 竹内陽南子 長岡 宮脇改太 久礼 窪田茉優 ★八段 浦ノ内 森田 葵 越知 片岡杏璃 ★七段 上ノ加江政岡桃加 岡豊 中司ころ 吾桑 梅原蒼菜 須崎 田村拓海 ★六段 岡豊 島村倅空 浦ノ内久保田健介 上分 柳本稀衣 上ノ加江岩田愛菜 潮見 須賀勇介 ★五段 別府 後藤 樹 ★四段 浦ノ内 中田瑚音 ★三段 吾桑 高橋芽生奈 藤沢 駒崎信慈
--	--	--	--	---	--

毛筆四年

審査 河村 容丹

★八段

須崎 毛利香花

★七段

須崎 田村紗雪
浦ノ内 正木芳尚

★五段

長岡 竹内加菜心
岡豊 島村心遥
上分 梅原未來
多ノ郷 太田朋希

毛筆三年

審査 河村 容丹

★五段

上分 吉村はるか
須崎 金堂 涼

★四級

長岡 ○大塚もも

★五級

越知 ○宮脇芽生

池川 ○藤原沙雪

別府 ○吉永羽唯

★六級

多ノ郷○濱田理仁

★新規

越知 九級編入

小田緒十

もうひつ二年

審査 深瀬 緑堂

★四段

吾桑 松坂望未

★二段

岡豊 梅原由菜

野市 小笠原恵那

★初段

岡豊 荻 かお

★一級

岡豊 三谷斗維

★四級

別府 ○片岡脩平

べふ○
ふじはらみずき

★九級

奈路 ○坂本翔成

★新規

佐川 九級編入

井上めい

もうひつ一年

審査 水田 紅子

★三段

しんじよう
なかしまゆいと

★二段

須崎 金どうこな

★初段

池川 鶴井遥都

別府 後藤和葉

★三級

池川 ○藤原成琉

★七級

池川 ○大西悠心

もうひつ
ようちほいく

審査 水田 紅子

★新規

かみぶん
よしむらそうた

硬筆六年

審査 森本 寿山

★特待生

多ノ郷 大城リサ

須崎 松田菜乃

上分 梅原百叶

上分 小松希美

多ノ郷 松浦結菜

★九級

長岡北村さくら子

久礼 森岡 虹

浦ノ内美島希花

浦ノ内 松山 翔

上分 田邊璃音

長岡 竹内陽南子

長岡 宮脇改太

久礼 窪田茉優

★八段

浦ノ内 森田 葵

越知 片岡杏璃

★三段

吾桑 高橋芽生奈

藤沢 駒崎信慈

級

★二級 長岡 ○大塚もも 越知 宮脇芽生 ★四級 馬路 木下魁人 ★五級 別府 ○吉永羽唯 池川 藤原汐零 ★七級 久礼 佐竹真到 ★八級 多ノ郷 濱田理仁 ★新規 十級編入 越知 小田緒十 こうひつ二年 審査 野中 恵花 ★五級 吾桑 松坂望未 梅原由菜	★四級 多ノ郷 坂本美咲 浦ノ内 吉岡まひろ ★三級 附属 江頭 航 浦ノ内 中平湧大 ★二級 浦ノ内 寺内かのん 久礼 森岡べに ★初段 岡豊 荻 かお 野市 小笠原恵那 佐川 井上めい 高岡 隅田珠有 久礼 奈路かなえ ★一級 岡豊 三谷斗維 ★二級 別府 ○片岡脩平 上分 ○橋田果歩 ★七級 奈路 ○坂本翔成 べふ ○ふじはらみずき	★八級 久礼 ○細木しょうき ★新規 九級編入 久礼 松山あいみ こうひつ一年 審査 石川 美水 ★三段 しんじょう なかじまゆいと ★二段 須崎 金どうこな 別府 後藤和葉 ★四級 浦ノ内 ○とくながあやと ★五級 久礼 ○小林じゅんな	★六級 浦ノ内 ○山さきひな 池川 ○大西悠心 久礼 ○日林にこ ★七級 久礼 ○毛利いろは 吾桑 ○鈴木 杏 ★八級 久礼 ○下谷なのか 池川 ○藤原成琉 ★九級 久礼 中野せいら こうひつ ようち・ほいく 審査 石川 美水 ★六級 おひさま もりみつるな ★新規 九級編入 かみぶん よしむらそうた	十級編入 たちはな 坂本ゆうま
--	--	---	---	--------------------------------

中国文房四宝
国産書道用品
久保田号銘筆

有限
会社

樹 筆 堂

〒780-0818 高知市宝永町3-3
T E L (088) 8 8 2 - 1 4 5 4
F A X (088) 8 8 4 - 7 4 1 3

令和八年三月号からの規定課題

【大意】

故郷杳無際

故郷 杳として際無し
にちば か こせい

日暮且孤征

日暮 且つ孤征す
にちば か こせい

川原迷舊國

川原 旧国に迷い
せんげん きゆうこくに

道路入邊城

道路 返城に入る
だうろ へんじょうに

野戍荒煙斷

夜戍 荒煙断え
やしゆ こうえんた

深山古木平

深山 古木平らかなり
しんさん こぼくたい

如何此時恨

如何せん此の時の恨み
いかん こと

噉噉夜猿鳴

噉噉として夜猿鳴く
きようきよう やえん

故郷をはるか遠く離れ、

日も暮れかかった中、ひとりで旅を続けている。

昔、楚の国だった川辺の荒野を迷い歩く。

道はいつの間にか田舎の町に入つてゆく。

野中にある古い砦は荒れ果てて火の気もない。

深い山には大木が平らに連なつて続いている。

猿が鳴くこんな夜、この瞬間の悲しみを
どうすればよいのか。

(出品票)

のり代

8年
1月
毛筆

校名

学年
保年

氏名

名

段

級

のり代

8年
1月
硬筆

校名

氏名

段

級

春季昇段級試験作品募集

▽師範の部 (受験資格・本会準師範位に限る)

○課題

花開萬人集 花盡一人無
但見雙黃鳥 綠陰深處呼

花開いて万人集まり／花尽きて一人無し／但だ見る双黃鳥／綠陰深き処に呼ぶを

。右の詩句を小画仙半折に隸、楷、行草体の三枚と一ページ王鐸擬山園帖第一、十二文字以上を節臨して計四点出品のこと。
。作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで姓号を明記すること。
。当選者は本会師範に推挙する。

▽第一部 (受験資格 一般部段位、級位の者)

○課題

春潮帶雨晚來急 野渡無人舟自橫

春潮 雨を帯びて晚來急なり／野渡 人無く 舟自ら横たわる

。右の詩句を小画仙半折に楷、行草体の二枚と一ページ王鐸擬山園帖第一、十二文字以上を節臨して計三点出品のこと。
。作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで現段級と姓号を明記すること。
。当選者は準師範以下相当段位に認定編入する。

▽第二部 (受験資格 一般部級位の者)

○課題

白雲無盡時

白雲くくる時無し

。上記を楷、行、草の三体を半紙三枚出品のこと。
。作品を楷、行、草の順に縦に貼つぎすること。
。作品は無落款とし、作品裏面左下にエンピツで現級位と氏名を明記すること。
。当選者は初段以下相当段級位に認定編入する。

△出品料

師範部・八千円／第一部・六千円／第二部・四千円
(作品と同時に納入してください)

師範参考手本は本会役員は書かない。

第一、二部参考手本を希望される人は本会役員に直接申込んで下さい。潤筆料は条幅三点につき一万五千元、半紙三点につき五千元。

▽学生・学童の部 (毛筆部)

課題字句「龍跳」一月号掲載(一月二十日締切)の課題字句とします。

規格は半紙。一人一点とします。

書体は自由です。

。作品の裏にエンピツで学年と段級位・氏名を書くこと。(段位は漢数字、級位はアラビア数字で) 作品の表には絶対に書いてはいけません。

。出品料 五百円

▽硬筆作品

。課題の文字は龍跳一月号(一月二十日締切)の課題字句とします。

。それぞれの学年に応じた硬筆用紙に規定の字句、学年段級位、氏名を正しく書いて出品してください。

。段位は漢数字、級位はアラビア数字でハッキリ記入のこと。

。出品料 五百円

△作品の締切

令和七年二月二十六日(木) 必着のこと。

△審査日時

令和七年三月一日(日) 午前九時三十分より

△審査場所

未定

△受験作品送付先

〒七八三〇〇八一 南国市片山四九〇 西山極山 宛

注

封筒表に「昇試作品在中」と明記すること

新年試筆作品について

出来るだけ多くの方の出品をお願いします。

記

締切日 12月21日（日）（審査日当日受付）

出品料 5,000円

※審査会に出席されない場合は、どなたかに預けて下さい。

試筆作品出品票	
整理	
姓 号	文 積
(多字数は二十文字まで)	

※一月（三月号）の送本は一月八日（木）を予定しています

※新年試筆作品には左の出品票を作品左下に貼って下さい。

◎掲載後、作品をお返ししますが、後に表装される方は、

貼り付けずにクリップでとめておいて下さい。

◎姓号と釈文は作品横に載せますので、左の出品票は楷書で

正しく書いて下さい。

◎紙はなるべく白を使って下さい。
(文字がはつきり写ります)

令和 8 年度からの事業計画予定表

月 日	時 間	行 事	場 所	室
1月		新年試筆(2月号)		
1月25日(日)	9:30~12:00	1 月審査会	高知城ホール	やまもも
2月22日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	2月審査会 練成会	高知城ホール	やまもも
3月1日(日)	9:30~15:00	春季昇段級試験 準備・試験 (慰労会)	高知城ホール	やまもものじぎく (弁当あり)
3月22日(日)	9:30~12:00 審査会終了後	3 月審査会 総務会	高 知 会 館	安土・桃山
4月26日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	4 月審査会 龍跳会下見会	高知城ホール	やまもも
5月24日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	5 月審査会 龍跳会下見会	高 知 会 館	安土・桃山
6月21日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	6 月審査会 練成会	高 知 会 館	安土・桃山
7月6日(月) 7月7日(火)~ 7月12日(日) 7月12日(日)	9:00~12:00 9:30~17:00 最終日15:00まで 15:00~ 16:00~	龍跳展搬入 第69回龍跳展 搬出 龍跳展慰労会	高知県立美術館 県民ギャラリー 高知城ホール	県民ギャラリー のじぎく
7月26日(日)	9:30~12:00	7 月審査会	高知城ホール	やまもも
	13:00~15:00	県展出品作勉強会		
8月23日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	8 月審査会 県展出品作勉強会	高知城ホール	やまもも
9月6日(日)	9:30~15:00	秋季昇段級試験 準備・試験	高知城ホール	やまもものじぎく (弁当あり)
9月27日(日)	9:30~12:00	9 月審査会	高知城ホール	やまもも
10月25日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	10月審査会 練成会	高知城ホール	やまもも
11月22日(日)	9:30~12:00 13:00~15:00	11月審査会 練成会	高知城ホール	やまもも
12月27日(日)	13:00~15:00 15:00~17:00	12月審査会 新年試筆作品提出 忘年会	高知城ホール	やまもも

連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎一三三一

隅田亘心

龍跳書道会

紫雲口渡部町

01690-3-31925

電話(〇八八九) 三五〇九七一番

・月例作品の送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山

電話(〇八八) 八六五―八八五七番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-7412 安芸郡東洋町河内三〇四

福原暁雲

電話(〇八八七) 二九―二六五〇番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六一八

江澄翠

電話(〇八八九) 四二―三〇六七番

・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話(〇八八九) 四七―〇七二一番

あとがき

私はそのころ迷っていました、絵を続けていくのか書道を始めるのか。時は昭和六十三年、私は高知市の高新文化教室で貞廣英明先生に絵を習っていました。当時は旧池川町(高知市まで車で一時間半以上を要する山間地)に住んでおり、終業後に高知市までの往復は些かしんどいなあと考えていた矢先、友人から「一緒に書道を習いませんか」と誘いを受け、迷った末この道に入門したのでした。

師は、龍跳の準師範だった前田龍水先生。先生の書は、今にして思えば鄭道昭風で雄大な書風でありました。しかし、その先生も二年ほどで亡くなられ、友人たちも辞めてしまいました。さてどうしたものか……と考え、町田碧峰先生にお願ひし、初めて昇段のお手本を書いていただいた時は、その筆致と芸術的な線に魅了させられたものでした。

その後数年は一人で気ままに書いていましたが、ある時「出間桂堂先生が越知においでるので一緒に習いませんか?」と声をかけてくれたのが吉村さんと大原桂園さん。出間先生の力強く波打つような練れた線質に魅せられ、ありがたく師事させていただき懸命に学んできましたが、とても足元にも及びませんでした。その先生も昨年三月に亡くなられ虚無感がありますが、こうして続けてこられたのは、多くの先達や書友のお陰様と感謝の念に尽きません。どうかこの龍跳会が「書」を楽しめ、活気のある一門であらんことをと願う年の瀬です。

月例競書課題

部 別	締切日	
	一月二十日 締切	二月二十日 締切
一般条幅	任 意	任 意
半紙規定	自覺坐來久	蒼苔已有痕
半紙随意	任 意	任 意
中学三年	人類の幸福	日常の話題
二年		
一年	冬季休暇	給食当番
小学六年	文化交流	少年時代
五年	初日の出	公明正大
四年	うめの花	春を待つ
三年	げんき	川の小石
二年	こたつ	だるま
一年	こ ま	そ ら
保 育		

会 費 の 送 金 に つ い て

会 費 ：半年分 3,000円 / 1 年分 6,000円

1 ヶ月の龍跳誌郵送料 (R6.10～)
(幸便搬送の方は〒料不要)

①	1 冊	180円
②	2 冊～7 冊	210円
③	8 冊～20冊	430円

21 冊以上は次の計算による。

21 冊 ③ + ① = 610円×月数
 22 冊～27 冊 ③ + ② = 640円×月数
 28 冊～40 冊 ③ × 2 = 860円×月数
 50 冊の場合 ③ × 3 = 1,290円×月数

◎会費と龍跳誌〒料は原則として半年分または1 年分前納のこと。

◎送金は次の何れかへ
 ・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
 ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会
 (お問い合わせ) ☎0889-35-0971

○月号 (○冊) より○月号まで○ヶ月分
 誌代 ○円 / 〒料 ○円

と記入のこと。

編集室

福原 暁雲

野島 桂山

江西 澄翠

中平 美峰

発行人

福原 暁雲 (本部)

安芸郡東洋町河内三〇四

電話 (〇八七) 二九一二六五〇

発行所

龍跳書道会

電話 (〇八七) 二九一二六五〇

印刷所

(有)笹岡印刷所

須崎市東古市町二一六

電話 (〇八九) 四二一〇二四四

月例作品送り先

〒783-1001 南国市片山四九〇

西山極山 宛

電話 (〇八八) 86518857